

## H-⑪ 公民館商店街（子どもが営む商店街）Part2

子供の居場所としての活用	○	住民相互の学び合い・交流	○	関連施設・施策や民間企業等の連携	○
--------------	---	--------------	---	------------------	---

### 1 学習プログラムの展開（令和7年度）

令和6年度 of 取組を基に、NPOおのみち寺子屋に所属する大学生との連携・協働、小学生・中学生・高校生の協働により事業を展開しました。

日 程	場 所	学習・活動内容（◇は職員の活動）
令和7年3月	河内公民館	<p>①「一緒に勉強やろう会」の実施（3日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊による「子供哲学」 子供たちが話し合いたいテーマを提案し、グループで自由に話し合う。</li> <li>・ホットケーキ作り グループ毎に協力して調理し、共に味わう。</li> <li>・中学生によるゲーム 小学生が楽しめる内容となるよう、中学生が工夫して企画・運営。高校生も小学生と共に参加し、中学生をサポート。</li> </ul> <p>◇公民館商店街実施に向け、大学生へねらいを共有。 ○大学生がアドバイザー・ファシリテーターとして子供たちを支援。</p>
令和7年 6月22日（日）	河内公民館	<p>②「公民館祭り」の実施</p> <p>○御調中央小学校、御調西小学校、御調中学校、県立御調高等学校が公民館祭りの運営に参加。</p> <p>◇公民館祭りの運営に携わった児童・生徒に対して、公民館商店街の参加を呼びかけ。</p>
令和7年 8月19日（火）	河内公民館	<p>③「算数って楽しい」の実施</p> <p>◇講師に高専生を招き、遊びながら算数やコミュニケーションを学ぶ場を企画・運営。（金銭管理と関連）</p> <p>◇公民館商店街実施に向け、大学生へねらいを共有。 ○大学生がアドバイザーとして子供たちを支援。</p>
令和7年 11月24日 （月・祝）	河内公民館	<p>④「打合せ会」の実施</p> <p>◇商店の運営（商品、金銭管理等）について最終確認。子供の思いを実現できるように支援。</p> <p>○大学生がアドバイザーとして子供たちを支援。</p>
令和7年 12月14日（日）	河内公民館	<p>⑤「公民館商店街」の実施</p> <p>○小学生・中学生・高校生がそれぞれの個性を生かしながら公民館商店街を運営。</p> <p>○大学生がアドバイザーとして子供たちを支援。</p>



対 象	小学校4年生～高校生
経 費	参加費無料、広島県公民館連合会助成金7万円（報償費、印刷代等）

## 連携先

尾道市立御調中央小学校、尾道市立御調西小学校、尾道市立御調中学校、広島県立御調高等学校、NPOおのみち寺子屋、御調地域学校運営協議会、みかん農家、地域おこし協力隊

## 問合せ先

尾道市河内公民館

〒722-0343 広島県尾道市御調町丸河南 90 番地 1

電話：0848-76-1981 メール：kawachi.kominkan@arrow.ocn.ne.jp

## 2 学習目的

○少子高齢化が進む中、若者の定着や帰郷が、地域づくりには不可欠である。また地域貢献を望む子供が地域に多く見られる。そこで、地域貢献活動（公民館商店街の運営）を子供が主体となって行うことを通して、子供の自己肯定感、自己有用感、達成感を育むとともに、地域への愛着心を高めることを目指した。

## 3 学習目標（学習目的の達成に向けて、身に付ける力）

- 子供が、参加者同士や地域内外の来客者とコミュニケーションをとる中で、自分と地域（住民）との関係性を意識し、地域に関心を持つこと
- 商店を主体的に運営したことで地域貢献が出来たという子供の意識を向上させること
- 商店運営に関する経済的な知識・理解を高めること

## 4 事前に必要な知識や準備物

- 連携団体との連絡・調整
- 他の事業と関連性を持たせる仕組みづくり
- チラシの作成に関わる準備

## 5 留意点

- 子供の考えや思いを引き出し、実現できるように支援する。
- 地域の小・中学校、高等学校、大学生（おのみち寺子屋）、学校運営協議会等と日常的に連携。
- 金銭を扱うので管理を慎重に行う。

## 6 成果

- 地域に開かれた公民館としての役割を果たせた。
- 大学生の支援（一緒に活動、褒める・アドバイス等）のもと、子供が主体的に事業に関わり学んだことで、子供の自己肯定感・自己有用感がさらに育まれた。コミュニケーション能力・自信・主体性・次の活動への意欲の高まり等、変容が見られた。
- 公民館商店街実施に向け、大学生や参加者同士の関わりを継続したことで温かなつながりが生まれ、事業の効果が高まった。
- 子供たちとの関わりが大学生のやりがいや喜び、新たな発見となり、お互いの学びとなった。
- 多くの世代が関わるコミュニケーションの場となったことにより、公民館商店街に関わった大人たちが、地域住民としての当事者意識を高めることにつながった。

## 7 課題

- 関係性をどのように維持していくか。
- 取組を今後の地域づくりにどう生かしていくか。

## 8 学びの成果を事業後に生かすための工夫

- 日頃からの連携を大切に今回築いた関係性・協働体制を継続し、公民館運営や地域行事に対する参画意識をさらに高める。

